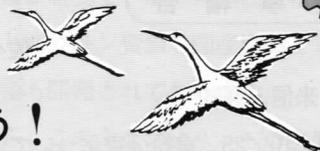




ENJOY ROTARY!



ロータリーを楽しもう!

会長 高橋良士 幹事 佐々木詰彦 クラブ奉仕 佐藤 衛 職業奉仕 忠鉢 徹 社会奉仕 斎藤 昭 国際奉仕 塚原初男 青少年奉仕 加藤 賢

出席報告:会員 89 名 出席 57 名 出席率 66.67 % 前回出席率 69.33 % 修正出席数 71 名 確定出席率 84.00 %

会長報告

高橋良士君

先週火曜日に開催いたしました。第2回クラブ協議会の御報告を申し上げます。

今回のクラブ協議会は従来の協議会では会長が各委員会の活動報告を調整、指導を行うという形式で進行して参りましたが、勿論この形式も協議会の目的に充分なものでありませんが、今回はクラブ協議会はクラブの企画、及び諮問機関であるという、観点から次の様な主要議題のもとに新入会員も出席していただきフリーディスカッションの形式で行いました。

1. 活動計画書、報告書に対する意見と要望
2. 女性会員入会に関する問題について
3. 姉妹クラブ台中港区ロータリークラブとの盟約及び次年度創立20周年記念式典参加への対応について

4. 予算の現況について
5. 例会運営に関して (特にゲスト・スピーカー 25分確保について)
6. 例会を変更した場合の出席率低下にどう対応するか
7. クラブ資料委員会の提案について特に資料保存細則に関して
8. ライラ特別委員会の委員氏名の発表
9. 会員増強の対応
10. 在日留学生との懇談会について

その他、会員各位の貴重な御意見をいただき今後のクラブ運営の指針にしてゆきたいと存じます。

● 本クラブ最長老

鈴木善作君より御高令のため退会届

ENJOY LIFE

北京再訪

津田晋介

昨年11月北京を訪れて。昭和20年引き揚げて来てから、もう一度行ってみたいと憧れながら果たせなかった夢の43年振りの実現であった。

空港からバスで北京市内へ向かったが、いつになっても城壁が見えてない。もう間違いない市内に入ったのに、周囲を見廻しても城壁が見えて来ない。ガイドの云うには、交通渋滞の原因となるので全部取り壊してしまったとのこと。成程夥しい車のラッシュである。そして街の到る所に12、3階から20階程のビルが林立している。建築中のビルも次々に現れて来る。洋車(人力車)は一台

も見る事が出来なかった。

昭和20年頃の北京は、高層建築といえば、8階建の北京飯店(ホテル)だけだった。その北京飯店は、増築に次ぐ建築で、今では新館、旧館、旧々館、旧々々館、旧々々々館にまでなっているという。

東西南北に夫々二つ宛計八つの華麗な城門を構えた内城とその南に作られた外城の巨大な城壁に囲まれ、その中を洋車(人力車)が静かに走り廻り、街中には美しい街路樹の緑に包まれた杜の都北京は、もう完全に消え失せてしまっていた。

今や故都北京は無く、有るのは全く別の新興近代都市の北京であった。こんな筈じゃなかったと裏切られたような寂しい気分させられ、次の目的地西安へと向った。

エンジョイライフ

幹事報告

米山記念奨学会

佐々木 詰彦 君

③ 10/27 オーストラリア 斎藤さゆりさん
(近況報告)

1 ; 来信・通知

① 10/25 車粉公害についての私見 (二冊)

④ 10/27 お礼状 村上RC

江別RC会員 拝野賢治氏

2 ; 例会変更

② 10/27 7月～9月 寄付金納入明細

なし

新入会員スピーチ

原子力発電への取り組みについて

柏倉 淳 宏 君



東北電力の地元営業所長の柏倉でございます。日頃、当社事業活動について暖かいご理解とご協力を賜わり厚く御礼申し上げます。

本日は、新入会員スピーチということで、貴重な時間を頂戴いたしましたので、当社における『原子力発電への取り組み』についてお話しさせて頂きたいと存じます。

本日のお話しは大きくわけて3つの視点で考えてみました。

1つは、現状といたしまして、日本におけるエネルギー事情であります。

2つ目は、そのエネルギーのうち電気の供給体制がどうなっているかということでもあります。これは「電源構成」ということでもあります。

3つ目は、将来の方向性としての原子力の位置づけでございます。

それでは、第1番目の日本におけるエネルギー事情でございますが、私は2つあげたいと思います。1つは、日本は現在世界人口(約50億)の約2%を占めておりますが、エネルギーの消費は約

5%を占め、自由世界第2位の消費大国であるということでもあります。

2つ目は、その消費エネルギーの80%を海外に依存している資源小国であるということでもあります。

この現状を踏まえ、エネルギー供給の一端を担う電気事業者として、電気エネルギーをどのようになまかなっているか、これが第2の視点でございます。

電気事業は私企業ながら、公益事業として地域独占という国の厚い保護のもとに事業活動をしており、お蔭様で順調に発展してまいりましたが、その代償として厳しい供給義務が課せられております。

今や電気は空気のような存在で『ある』のが当たり前という程になっておりますが、この電気エネルギーの供給責任を負う私共といたしましては、お客様の要望に応じて、必要な電気を適正な価格で、しかも安定して供給していくことが義務であり、そのための発電用資源として現在、水力、石油、ガス、石炭、そして原子力などを利用しております。

昭和30～40年代において、石油が安価で多量に

調達できたことから、石油火力を開発し昭和40年代の高度成長時代をささえてまいりました。その当時の当社の電源構成は石油依存度が6割を越していました。

このような現状のなかで、昭和48年と54年に2回にわたっておきたオイルショックで石油の価格が急騰し、1バーレル4.75ドルが最高36.94ドルとなり、皆様に多大なご迷惑をおかけしたのが昭和49年6月（51.9%）昭和51年6月（28.47%）昭和55年4月（58.33%）の再三にわたる電気料金の値上げでございました。電気料金の改定にあたっては、いろいろとご説明させていただきましたが、その大きな柱は脱石油ということで過度に石油に依存した体制をいかに改善するかということでした。そして、国策としても石油の消費量を落とし、省エネ、省電力にご協力を賜ったものこの頃であり、省エネ、省電力などという言葉が流行いたしました。

物価は上り景気が停滞するなかで皆様方のたくましい企業努力とたくみな経済政策で、日本は世界のなかでいちやくオイルショックを克服したとして今では高く評価されておりますが、当社の電源構成も大転換を行い、石油にかわる代替エネルギーとしてガス、石炭そして原子力のウェートを高めてまいりました。

結果として、電気料金のなかで大きなウェートを占める原油価格と為替レートがどう変わったか皆様ご承知のとおりでございます。

最後に原子力の位置づけですが、原子力発電のもととなるウランは、石油や石炭と同じく使ってしまうと枯渇性資源であります。埋蔵量が比較的多く、しかも少量のウランから莫大なエネルギーが取り出せるという大きな特徴がございます。

しかも日本のような資源小国にうってつけな資

源として、備蓄が容易で、かつ再処理することにより一旦輸入したウラン資源を国産資源として再活用できる技術も開発されております。

しかしながら、この大きなメリットの裏側では人体に有害な放射能の管理の問題があり、アメリカとソ連で起きた原子力発電所の事故を契機にその安全性が大きな社会問題になっております。

原子の火を初めて実用化してから、今年で丁度26年になりますが、この放射性物質を扱う技術に対しては、アメリカおよびソ連での事故を他山の石とし、常に石橋を何度もたたいて渡るといった慎重さと謙虚な気持ちで対処し、特に地震国であるわが国では諸外国に比べても厳しい安全基準を設け安全性を追求しております。将来化石燃料の供給にかけりが見えた時に、“くい”の残らないよう開発を心掛け、安全、安定、安価な電力を供給するため、水力、火力、原子力のそれぞれの特徴を生かした供給源の分散化を図り、電源構成のベストミックスを進めてまいりたいと考えております。

この電源構成のベストミックスのなかにおける原子力の位置づけといたしましては、電力の安定供給とコストの高騰抑制を図るため、供給の安定性および経済性に優れた原子力を中心に水力、火力を組合せるなかで、電源構成のベストミックスを進めてまいりたいと考えているところであります。特に原子力については安全最優先の運転を心掛け、不具合発生時は原子炉をとめて原因をつきとめることとしております。

私共は今後も安全確保に万全を期し、安全運手、安定運転の実績を積み重ねながら、原子力推進に対する皆様の一層のご理解をいただけるよう、全力をあげて取り組んでまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

ご静聴誠にありがとうございました。

長距離・高速バスの運行状況



新入会員スピーチということで、何をお話していいか迷いました。会社のPRだけでは聞き苦しいと思いついて、ここ数年全国的に都市間高速バスの運

行が活発になっていることから、若干会社のPRも交えながら全国の高速バスの状況をお話したいと思います。

最近、高速バスに関しては、まとまった本が出版されていますし、また、週刊誌などでも記事として出ているのが見られます。

そこで、今年8月に出版されました「高速バス大百科」を参考にしてお話しさせていただきます。

現在300km以上の長距離バスとしましては、昭和44年6月から運行を開始しました。東京-名古屋・京都・大阪間を当時の国鉄、今のJRが最初であります。また民間バス会社が運行を開始したのは、昭和55年の東京-山形間、東京-仙台間が最初であります。

今年6月現在で長距離バスの一番は東京-広島間の917kmを13時間で運行しているのであります。

現在では、全国の都道府県に高速バスが運行しています。

東北では、東京-青森、能代、弘前、秋田、八戸、田沢湖、酒田、山形、仙台それに仙台-成田、弘前、酒田線が運行されています。

長距離・高速バスの始まりは帰郷バスであり、その奔りは昭和36年に京浜急行が「ふるさと訪問

五十嵐 宏 夫 君
バス」として運行したのが始まりであり、当社では昭和42年からお盆と正月に帰省上京バスとして運行を始めました。

当社も帰省上京バスは最盛期は、1シーズン帰省20台、上京20台と2,000人を輸送しましたが、昭和57年の東北・上越新幹線の開通により、利用者は最盛期の半分近くまで激減しました。

その後、利用者は戻らず、全国的には長距離・高速バスは“風前の灯”かとも言われた時がありました。

しかし、昭和61年に、帰省上京バスが再び上昇傾向を見せ始めました。

それは、高速道路の整備が進み、安定した走行とスピードアップが図れたことと、運賃の安さが際立ってきたこと、必ず座れること、バスがデラックス化したことなどにより見なおされてきました。

高速バスの魅力として言われることは、全国的なアンケートによりますと、第一に安さが魅力と言われています。東京へ出る若い女性、浮いたお金がお土産やグルメに東京へ出ている学生が年二度の帰省が年四回に。

第二に、スピードもバカにならないことです。もちろん高速バスが速いといいますが、スピードで新幹線や飛行機にかなうわけではありませんが、在来線の特急クラスには互角にわたりあえるスピードをもっています。

第三に、地方都市では市街地の中心地でも停留所を設けることが出来ることであります。

第四に、ゆったりシートとなっており、夜行バスは三列シートとして隣の人と肩が触れ合わない

ようになっています。

第五に、車両と設備が高級志向になっています。

こういった点が、高速バスの上昇の大きな理由と思われる。

当社のバスは、スウェーデン製のボルボ車であり、後の方が二階建てになった車で一階に喫煙室とトイレ・電話・交替運転士の仮眠室を配しています。

この手の車は現在当社だけが使用しているものでして、全国の他社の車両はすべて国産のものです。

また、当社では、東京と仙台の2線運行していますが、その利用方法をみますと男性はビジネスが多く、女性は子供のところへ行く・買物・レジャーなどが多く、学生帰省・レジャーの利用が多いといえます。

当社の東京線は昨年12月21日からこの9月30日までの284日間で、26,416人の利用者があり、1日平均93人となり、定員が28人ですから1日平均3.3台の車両が運行したことになります。ただし、この数字は12月と8月の帰省・上京時に1日最高時8台の車両が運行したこともあるためです。

一方、仙台線は8月4日からこの9月30日までの58日間で11,177人の利用者があり、1日平均192人となり、定員40人ですから1日平均4.4台の車両が運行したことになります。

また、当社ではお客さまの増加に備えるために、東京線には1日1便のダイヤに対し3台の車両、仙台線には1日2便に対し3台の車両を用意しており、出来るだけお客さまの増加に合わせまして増便体制をとっています。

それにしましても、お客さまがそれ以上になりますと、同じ程度の車両で賄いきれないときは、設備の違う車両を使うことになり、この場合は、予めお客さまにお断わりしましてご利用いただい

ております。

私達としましては、東京へバスが行く、仙台へバスが行くということで、単に人を運びますというだけでなく、情報をも運び地域の活性化の一助にも役立ちたいと考えております。

今後、私達としましては、東京線が運行して1年になろうとしています。業務に“慣れ”が出て、サービスが低下することのないように、会社も従業員も開業当初の初心を忘れずに頑張りたいと思っていますし、それと安全は最大の責任であり、最低限のサービスであることを念頭において努力します。

長距離・高速バスはこれからも多くなると考えられますが、8月からは日本一長距離のバスは大坂-鹿児島間の950kmを運行しています。

更に、これからの長距離バスは、個室バス、寝台バスそれに液晶テレビのあるバスが出てくるのも近いものと考えられます。

＝ 羽黒高校野球部OB

訪豪あいさつ＝



あさってから、2日間の短い間ですが、オーストラリア・クイーンズランドの選抜チームと私共OBのチーム（19～23才の若いチーム）と5日（日曜日）2試

合ゲームをすることになりました。

それにあたりまして、向こうのロータリーの方々も非常に熱心に準備して下さいまして、サリーナの人たちがエキサイトしているということが、斎藤さゆりの手紙にも書いてありました。

それと、4日の夜にはディナーの席も用意して

下さり、羽黒の小さいチームにこのような機会を与えて頂きまして、本当にありがとうございました。みんな仕事も手につかない状態です。野球はもちろん頑張りますが、向こうの皆様と仲良くなって帰って来たいと思います。本当にありがとうございました。

委員会報告

国際奉仕委員会

塚原初男君

交換留学生の齋藤さゆりさんより近況報告あり。
(手紙回覧)

11/3～11/6の羽黒の野球チームの来るのを楽しみにしているとのこと。

スマイル

鈴木茂男君 先日のクラブ協議会を急用にて欠席しましたので、会費を全額スマイルします。

矢口良行君 第一小学校に通っている娘が文化祭で4年の演劇で主役を演じましたので。家族では初めてことで。

秋野昭三君 娘に二人目の孫が先日できましたので。

中沢進君 先日のクラブ協議会を欠席しましたので、私も高いスマイルをさせていただきます。

佐々木喆彦君 佐藤監督の発表された羽黒のオーストラリアへ行く野球のメンバーの中に私のスポーツ少年団のときからの仲間が1人参加しますので。

ビジター

本間儀左エ門(温海RC)

五十嵐清(")

渡部晃雄(")

長野正彦(鶴岡西RC)

加藤有倫(")

14日(火)のプログラム予定

ゲストスピーチ

県議会議員

佐藤正光氏



カット 三浦恒祺君